（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社　緑苑		
事業所名	グループホーム　メープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170-2		
自己評価作成日	令和6年2月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0177600285-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北２条４丁目１-2
訪問調査日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「心と心のふれあい」を理念に、出会い時から終末期の最後の日まで「家庭のように安心して過ごせる場でありたい」という思いを大切にメープルだから出来る事に職員が誇りを持って従事している。又、もう一つの理念である「ゆったりとした生活環境」である為の日々の改善や話し合いを大切にして、立場の隔たりなく言い合える環境の中で清潔で気持ちよく過ごしながら、利用者様と職員が共に笑いあえる環境の実現に努めている。 何よりも利用者、家族、職員それぞれが「一人の人」として、お互いに大切に思う事が職員の離職率の低さに繋がり、やがては利用者様とご家族の満足度に繋がると信じている。 ほとんどの職員が5年以上、10年以上従事しており、変わらない環境も利用者様やご家族から「安心感がある」と評価を頂けている事が職員の頑張る源にもなっている。 今後は、メープルの介護への思いが次の世代へと続いていくように、新しい職員の育成にも力を入れ、さらなる進歩が出来るよう今後も職員一丸となって取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームメープルは2004年5月に石狩市緑苑台地区に開設し、まもなく満20年を迎えます。建物は2階建て2ユニットで、近隣には総合病院や大型商業施設があり、自然に恵まれた閑静な住宅街に位置します。敷地内には同一法人が運営するサービス付き高齢者住宅やデイサービスがあり、イベント時など定期的な利用者交流を行い、災害時の連携をしています。冬季の除雪協力の地域貢献をはじめ、地元の少年野球チームとは家族ぐるみの交流を重ねるなど、地域密着型ならではの活動も継続しています。「心と心のふれあい」「ゆったりとした生活環境」の介護理念を実践すべく、利用者や家族から生活歴や思いを聴きとり、深く利用者を理解することで愛情ある支援に繋げています。職員は、施設長が行う「整容」「身だしなみを整える」支援から利用者を尊重する姿勢を学び、利用者の誇りやプライバシーに配慮した支援に努めています。また、終末期であっても「食事」「排泄」「入浴」を可能な限り継続できるよう支援し、その人らしい暮らし・生活の満足度を高めるよう事業所全体で介護技術の研鑽を積んでいます。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）	○	1　ほぼ全ての家族と
			2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
			2　数日に1回程度
		○	3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
		○	2　少しずつ増えている
			3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）	○	1　ほぼ全ての職員が
			2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1　ほぼ全ての家族等が
			2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

令和5年度　株式会社ソーシャルリサーチ

（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は常に介護理念を共有すると共に、介護理念をパンフレットに表記。又、理念については入居の際にご家族にもお話しした上で実践に繋げている	介護理念はパンフレット・法人ホームページに明記し、事業所内にも掲示手しています。利用者や家族に入居の際に伝え、職員は日常的な支援や会議の中で利用者の心情を深く理解し共有することで、理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今も、コロナやインフルエンザなどの感染対策もあり、完全なる地域とのつながりは難しい部分もあるが、継続して手紙や電話なども通じ、交流が途絶えぬよう努力している。また、継続して近隣の除雪作業の援助等行っている。	地域とのつながりが途絶えないようにコロナ禍でも近隣の散歩や買い物を継続しています。また、子ども野球チームとはイベント時のよさこい披露や父兄の運営推進会議への参加など、良好な交流関係を保っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて実施できていなかったケアカフェ等を今後出来るよう検討したい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月より、運営推進会議を参加型にて再開し、取り組み状況やホームでの活動を報告している	運営推進会議は利用者家族、地域住民、自治体職員が参加して、年6回開催しています。会議は運営状況や行事、事故報告のほか、介護についての活発な意見交換の場となっています。議事録は管理者の感想を追記して、各家庭へ配付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	状況に応じた相談等にも気 軽に乗って頂ける関係を築いていけるよう努め ている。	石狩市高齢支援課と介護相談員が2ヵ月毎に事業所を訪問し、支援の質の向上に協働して取組んでいます。介護相談員は利用者と直接会話し、暮らしぶりを話し、行政との橋渡しをしています。その際に、事業所見学や事業所の近況を伝えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等を通じ、常に意識をもてるよう取り組みながら、職員が目にするところに”手引き”を貼ることで 常に意識を持つように取り組むと共に、1F、2F の連携を24時間行う事で拘束につながらない ケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会は年5回開催、内3回は利用者家族や自治体職員も参加して意見交換しています。管理者は、利用者の生活歴等を知り理解することが愛情ある支援に繋がり、身体拘束や虐待防止の一翼となるということを日常的に職員に伝え共通認識となるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修の機会はいまだ少ないが、日常的に虐待が行われないよう話し合い、職員間の情報共有、周知徹底に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共には研修に参加している。また実際に成年後見人制度を利用している方もいるため、学ぶ機会も多く得られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時を含め日常時も含め十分な説明を心 掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やお手紙、電話等によるコミュニケーションを図り、常にご家族様との意見や要望を職員間で共有できるように努めている	運営推進会議時や電話、来訪時の会話の中から意向や希望を把握しています。直近では入居家族の外出や食事介助への参加の希望があり、利用者との自由な時間を過ごせるよう外出準備や利用者と家族との食事場所の提供などを含め、細かな配慮を行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを通じ職員、管理者が話し合いを行う場面を設けている。また、日常的に気軽に話し合える機会を設け反映させている。	管理者は職員と良好なコミュニケーションをはかり、職員の意見や要望は会議や日常支援時に収集しています。育休や介護休暇を安心して取得できるように職員募集を行う際は、職員から募集手法等のアイデアを検討しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施すると共に、処遇改善加算、ベースアップ加算、勤続年数に応じた賞与等、やりがいが持てる環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すすめている。現状は外部研修の機会がまだ少ない状況が続いているが、今後は更に研修の機会が持てるよう進めていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム連絡会などが少しづつ再開され、交流の機会は徐々に増えている。今後更に参加しサービス向上につなげたい		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や医療機関と情報を共有し、入居前からご本人の安心が得られるように努力している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族との会話の機会をもうけ、これから良き相談相手に慣なれる関係性が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のニーズに合わせた支援を共に考え、他の資源の活用に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに寄り添い、支えあえる関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもご協力を頂き、共に支えあう関係性を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるよう、時にはご本人に代替えし、手紙や電話を活用するなどし、関係が途切れぬよう支援に努めている	家族以外に、利用者の元教え子や近所からの来訪があり、子ども野球チームや隣接施設利用者とも定期的な交流が続いています。信仰する宗教の関係者と一緒のお参りを希望する利用者には外出の準備を整えるなど、馴染みの人や場所の関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで、お手伝い、レクリエーション、外出などを通じ利用者同士が気持ちよく関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談に応じられる関係性を続けられるよう努めている。一年の記録のDVDをお送りする等思い出の共有や関係性を絶たないよう努めている		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での本人との対話を大切にし、本人の希望や意向を常に把握できるよう努めている。	利用者が理想とする暮しや、したい事を表出できるよう、職員との会話の時間を作っています。スポーツや信仰など入居前の生き甲斐や生活習慣を継続しています。毎日の晩酌なども家族と話し合い、健康管理をしながら継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との対話を通じ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの体調や状況に応じ一人一人が思い思いに過ごせるよう情報共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや会議の中で課題やケアの在り方を常に話し合い、介護計画作成に繋げている	入居時には家族や本人から確認した生活歴や要望をアセスメントにまとめ、介護計画を作成し3ヵ月を目安に見直しています。入居後は月1回のカンファレンス、課題総括表の分析、担当職員や主治医意見等を基に介護支援専門員が介護計画を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや月例会議を通じ情報の共有に努めているが、タブレットの導入により、改善の余地が見られる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに常に柔軟に対応できるよう、取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	更に活用できるよう意識していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人ご家族の希望を優先し、訪問診療も外来も必要に応じた医療が受けられるよう支援している。	月2回、協力医療機関による訪問診療があり、令和6年3月現在全利用者が利用しています。精神科や耳鼻科などの専門医受診の際は、家族・職員が同行して医療機関と情報共有するなど、適切な医療の提供に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	温度盤や、看護記録と共に状態に応じ受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーとの交流を含めて、入院時は早期の退院が出来るよう伝え、相談に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの終末期に向けた取り組みについてご説明し、ご家族の意向を確認している。また、状況に応じ家族と医療関係者、職員とで話し合い、最後まで普段通りにホームの生活を送れるようチームで取り組んでいる	最期まで普段通りに過ごしてもらうという看取りケアの方針は、入居時に家族へ伝え理解を得ています。ターミナルケア説明書には身体精神両面の終末期ケアを明記し、状況・告知・緩和医療の意向などを家族へ確認しています。	入居時に終末期ケアの方針説明をしていますが、説明を行ったことや、同意の有無の記録がありません。家族や本人の思いは状況変化等に伴い常に揺れ動きます。書面への署名後も、納得した最期を迎えられるように、随時意思確認を行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っている。今後更に実践力を身につけていきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や地域との協力で災害対策を築いている。（併設施設のグランドハウス緑苑に避難出来る体制が整っている）	今年度は令和6年2月の避難訓練（火災想定）で、職員の動きや声掛けの重要さを確認しています。令和6年3月には地震から火災発生（夜間想定）で訓練を行う予定です。非常食や備蓄品の準備や避難場所として隣接施設の利用予定があり、事業継続計画も策定済みです。	
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい関係性の中にも、人生の先輩としての尊敬と礼儀を大切にできるよう心掛けている。	施設長自らが利用者とのコミュニケーションを深め顔を見て話す、身だしなみを整えるなど愛情を込めた支援を行う姿から、職員が学び利用者尊重の理解を深めています。配慮のない言動の実例をあげ、利用者の気持ちに沿った声掛けを実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な日々の交流にて自然にご本人が自己決定が出来るような環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースを理解し最大限に尊重できるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の活用やヘアカラー買い物の援助等日常も常におしゃれが楽しめるよう支援している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、利用者が共に食事を行い、食事時間に制限を設けず、一人一人の嗜好や食事形態を常に考えながら、最後まで食事を楽しめるよう取り組んでいる。また、食器洗いや食器拭き等、職員と利用者様が一緒に行っている	食事は給食業者が隣接する施設で調理し、刻み、とろみ、ミキサー食など各利用者の摂取状態を踏まえて提供しています。行事食、菜園での野菜栽培やおやつ、漬物作り、後片付けなどを通して食への関心や楽しみを味わえるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量・水分量を記録し摂取量が少ない方は食事内容の変更や(ミキサー食等)別紙対応を行うなど、一人一人の現状把握、支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや口臭が生じないよう、一人ひとりの状態に合わせた口腔ブラシ、舌ブラシ、歯間ブラシ等を用いて対応し、本人の能力に応じた見守りや介助支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要以上のオムツ、リハビリパンツ、パットの使用は避け、トイレでの排泄を基本に支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援しています。臭気等で不快を感じないようトイレは常に清潔にしています。また、トイレには清拭用に保温器で保温した使い捨てタオルを常備して、利用者が爽快感を得られるような工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と運動を心掛け、自然な排便に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週に3回入浴を行っており、基本的な曜日は決まっているが、本人の体調や状況に応じ、順番や時間にこだわらず柔軟に対応している。	入浴は週3回、事前に同性介助の希望を取り、意向に沿って支援しています。満足感のある入浴となるように、湯温、湯量、時間など個々の利用者の好みを把握しています。終末期であっても可能な限り入浴支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣の把握をに努め、日中の活動と休息のバランスを大切に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を常にチェック出来る体制を準備しており、職員が一致した認識を持ったうえでの支援に努めている。(個々の状況に応じて、薬剤師との連携のもと服薬の工夫を行っている。又、二重チェックを徹底し、誤薬防止に努めている)		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族から生活歴、嗜好を伺い、楽しみや役割を持った日常を過ごせる努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力しあって、利用者様個人、複数名での外出等、極力制限を設けずに支援を行っている	コロナ禍でも日々の外気浴を欠かさず、現在は近隣の散歩や買い物など活動範囲を徐々に広げています。個人的な外出支援のほか、行事として花見や紅葉狩りなど季節に合わせて遠方の観光名所や施設へドライブしており、外出支援を積極的に実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合いながら本人の希望や状況を考慮したうえで可能な限り所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを大切にし、常に整理整頓や清潔を保てるよう毎食ごとに居間の清掃を行い、トイレ等は適時汚れをとる事で臭いの無い環境づくりに努めている。季節感を取り入れている際にも子供っぽい飾りつけはしないよう配慮している。	居間は東南向きで採光が良く、大きな窓から見える景色から季節の移ろいを感じることができます。玄関・廊下は広く、華美な装飾を避けて柔らかい色調の絵画や写真を飾っているほか、温湿度、音、匂い、衛生管理に配慮して心地よい生活環境となるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に仕切りやソファーを活用しながら、自由に過ごせるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にある物や好みの物を持参して頂き、自由に空間づくりに生かしていただいている。加湿や温度管理に努めている	利用者の居室には自宅から持参した馴染みの家具やお気に入りの人形、編み機、愛用の卓球ラケットや座布団などがあります。利用者の個性や生活歴を大切にした居室となっています。温湿度管理のほか、転倒リスク回避のため整理整頓にも取組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓に努めて動線を確保した上で、転倒リスクを軽減し、本人が自立した生活が行える環境づくりを行っている。		